

Crescendo

2019.12
vol.137



謹
賀
新
年

「新 かぼちゃといもがら物語」#4
『幻視～神の住む町』撮影レポート

新年の幕開けはこれで決まり！
ヴィジュアルディ「グローリア」の魅力

あなたはどちら派？
ショパンVSリスト

みんなであそんだよ！「あそびのぼうけんフェスティバル」
ロバート・バーローのあそびの教室 レポート



宮崎県立芸術劇場プロデュース
「新 かぼちゃといもがら物語」#4

幻視

～ 神の住む町～

作 シライケイタ / 演出 立山ひろみ

宮崎を舞台に、“今を生きる”人々を描くシリーズ「新 かぼちゃといもがら物語」。毎回、県外から招いた作家に、宮崎県内で現地取材を行っていただき、宮崎を舞台にした作品をつくりあげていきます。第4弾となる今回は、劇作家、演出家として国内外で高い評価と注目を集めるシライケイタさんを迎え、立山ひろみ（宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター）の演出でお送りします。

■ あらすじ

豊玉姫の伝説が伝わる小さな神社。一人の女性が、連日境内の古びたベンチに座っている。かつて、幼い息子を亡くした女性は、我が子を陸において海に帰らざるを得なかった豊玉姫に、自身を重ねることで最愛の息子を亡くした傷を癒やそうとしていた。

その神社に時々現れる謎の青年との交流。女性を心配する夫。女性の心の傷に寄り添う、太古の昔からこの地に生きる神話の世界の住人たち。

土地、命、そして連綿と流れる時間。現代と太古を往還しながら、人間の生の営みを描き出します。

立山演劇Dに聞く！ シライケイタさんってどんな人？



作：シライケイタ 1974年生まれ、東京都出身。1998年、蜷川幸雄演出『ロミオとジュリエット』で白井圭太の名で俳優デビュー。2010年、劇団温泉ドラゴン旗揚げ公演に初の脚本を提供し、その後全作品の脚本・演出を担当。社会的なテーマのオリジナル作品から、映画や小説の舞台化など幅広い創作活動を行う。2018年、第25回読売演劇大賞にて杉村春子賞受賞。



【演出】
立山ひろみ
(宮崎県立芸術劇場演劇ディレクター)

シライケイタさんを一言で言いあらわすと、稀代の男前!!見た目ばかりの話ではありません!見た目に違わず中身が、ド級の男前!こんなに男前の人を私はあまり知りません。特に同世代にこんなに骨太な演劇人がいらっしやる事をいつも誇りに思います。ケイタさんの作品世界をぜひご堪能ください!

豊玉姫の物語

海幸彦の大切な釣り針を海に落としてしまった弟・山幸彦。海底のワタツミノミヤへと探しに出た山幸彦は、そこで海神の娘・豊玉姫と出会い、約3年を過ごします。海神の助けで、鯛ののどに引っかかっていた釣り針を手にした山幸彦は、地上に戻ることに。その後、離ればなれになった2人ですが、山幸彦との子を身ごもった豊玉姫が陸に姿を見せます。「出産の時の姿を見ないでください」と言い残し、ウガヤフキアエズノミコトを出産。しかし、約束を破った山幸彦にのぞかれ、豊玉姫は本来の姿（サメと言われています）を見られてしまいます。豊玉姫は自分の乳を岩に移し、ウガヤフキアエズノミコトを地上に残してワタツミノミヤへと去っていきましました。

参照：「神話のふるさと宮崎」
<http://www.kanko-miyazaki.jp/shinwanofurusato/>

シリーズのこれまで 「新 かぼちゃといもがら物語」

宮崎の女性と男性をあらわす方言「ひゅうがかぼちゃ」と「いもがらぼくと」。しっかり者の女と頼りなくお人好しな男。宮崎を舞台に“今を生きる”人々の営みから、日本の今を見つめた新しい物語を紡いでいきます。



#1 『板子乗降臨』
2017年2月15日📍～19日📍 イベントホール
【作】土田英生 (MONO)
【演出】永山智行 (劇団こぶく劇場)
【出演】渡部豪太、熊川ふみ、実広健士、日高啓介、河内哲二郎、あべゆう、酒瀬川真世、大迫紗佑里



#2 『神舞の庭』
2018年2月28日📍～3月4日📍 イベントホール
【作】長田育恵
【演出】永山智行 (劇団こぶく劇場)
【出演】田中美央、内田淳子、実広健士、松本哲也、古賀今日子、森岡光、片淵高史、成合朱美、河内哲二郎、原田千賀子



#3 『たのかんさあレンジャー』
2019年2月27日📍～3月3日📍 イベントホール
【作】戌井昭人
【演出】立山ひろみ
【出演】矢柴俊博、桑原裕子、実広健士、大江泰子、宇井晴雄、森川松洋、キムユス、片山敦郎、はまもとゆうか



チラシ撮影の様子をレポート！

11月某日、本公演のチラシ撮影のために、主演を務める東風万智子さんが来宮されました。東風さん演じる主人公は、かつて幼い子を亡くした自分の境遇を、豊玉姫伝説で子を陸において海に去って行く豊玉姫の姿に重ねる女性。撮影は、綺麗な青空と美しい海が見渡せる海岸沿いで行われました。

今回が東風さんにとって初めての宮崎。宮崎に来た感想を尋ねると「暖かくて、皆さん楽しくて、明るくて笑顔。宮崎はまさにこんなイメージでした。天気も良かったですし、素敵なお客さんを見させていただいて、楽しかったです」と笑顔で答えてくださいました。

この「新 かぼちゃといもがら物語」シリーズでは、出演者も約1ヶ月にわたり宮崎に滞在し、作品づくりを行います。「キャストも演出家の方も初めてお会いする方ばかりなので、その方々と作品をつくるというワクワク感があって、どんな作品になるんだろうって今から楽しみにしています」と東風さん。また、本シリーズでは宮崎を舞台にした作品ということで、登場人物のセリフが宮崎弁になっています。「これまでお芝居で宮崎弁を話すという役はなかったですし、(方言は)大変だとよく聞くので、そこが心配ですが、せっかく宮崎のお客様にご覧いただくので、皆様に受け入れてもらえるよう頑張りたいです。話せるようにもなれたら」と



意気込んでいらっしゃいました。

最後に、本誌をお読みの皆さんにメッセージをいただきました。「応援してください(笑)。皆様の“観る力”があってこそ、作品は出来上がると思っているので、ぜひ劇場に足を運んでいただき、応援しながらご覧いただければと思います。」

東風 万智子 こち まちこ

日本テレビの人気バラエティ「進め!電波少年」の企画「電波少年的ハルマゲドン2」「電波少年的80日間世界一周」でブレイク。その後テレビ朝日ニュース番組『ニュースステーション』の金曜日のスポーツキャスターを担当。2006年に芸能界を引退し、海外留学・社会人経験などを経て、2010年3月放送のテレビ朝日のドラマ「相棒」にゲスト出演し芸能界復帰。芸名を真中瞳から東風万智子に改名。2014年にはフジテレビ系THK昼帯ドラマ「聖母聖美物語」で復帰後初の連続ドラマ主演に抜擢される。現在は女優業に専念し、ドラマ・映画・舞台で活動している。

公 演

「新 かぼちゃといもがら物語」#4『幻視 ～神の住む町』
会場：イベントホール 2020年2月26日(水)～3月1日(日) 全5ステージ
平日 19:00 開演 土日 14:00 開演

【作】シライケイタ 【演出】立山ひろみ
【出演】東風万智子、駒木根隆介、河内哲二郎、中野弥生、五島真澄、三浦真樹

巻頭コラム

神宮前バス停にて

飲み方で街に出る時はたいいていバスに乗るのですが、10月半ばのその日、夕暮れ時に神宮前のバス停に行くと、ベンチに歳の頃80才ほどのお爺さんが二人座って話し込んでいました。お二人とも耳が遠いのでしょうか、かなり大きな声でしたから少し離れて立つ私にもよく聞こえる会話でした。

『こんどんしけは、てげのさんかつたじゃろね』『あんだけの台風が二度も立て続けに来ちゃあ千葉ん人ももぞなざわ』『水があふるだけじゃのうしてなげこつ電気が来んかつたらたまるか』『昔の宮崎と同じじゃね、台風銀座ち言いよつたが…』『じゃがじゃが、学校で教師がジェンとかキャストとか言いよつた』『ジェーンとかキャサリンとか台風に外国の女の名前が付いちゃったね』『おながはらかくとおじかつたかいじゃろか…』

幼馴染の二人が神宮さんに参ってきたのでしょうか、一人は日に焼けたお百姓さん風、もう一人は長いこと町で仕事をしてきた元サラリーマン風でした。

『おりどんがこめ頃はしけんたびに近所ん人がわっせ集まりよつた』『あんたんとこは家がひりかつたかいね』『しけん時はばやんどんがはりきってな、母ちゃんどん使うて煮しめたいて唐人ばし焼いて握りめしきょうさん作ってよ』『親父たちや消防団に駆り出されよつたなあ』『まやんどん(爺さん)が納屋かいたるき出してきて五寸釘で雨戸ん打ち付けよつたが』『爺さんたちやそれかいあちこち見まわって…どこん田んぼがあぶねえとかね』『こめえもんは家んなか走り回るだけじゃったが、中学ぐらいいなるとまやんに何やかや仕込まれよつた』『やま越えるとたいいてい飲ん方になったわね』『懐かしかねえ…今ん役所の避難所じゃそんげなわけにやいかんわねえ…』

思い出しながら書いていますから多少違う言い回しもあったでしょうが、私はこのお二人の会話を聞きながら、かつて確かにあった地域コミュニティの豊かさや強さを感じていました。そして宮崎の方言が醸し出す温もりも。

毎年2月に劇場オリジナルの演劇シリーズ「新 かぼちゃといもがら物語」を制作公演するようになって3年が経ちました。年明けの4作目を目指して準備が始まっています。宮崎ならではの味のあるコミュニティと方言がたっぷり温もり…その演劇シリーズのお手本のような会話だったなと思いつつバスに揺られました。同じバスで街に出たお二人がゆっくりゆっくりニシタチの雑踏に消えていく後姿をこっそり見送った夕暮れでした。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場
理事長 佐藤寿美



毎年好評の「オルガンとその仲間たち」シリーズ。
企画・監修を務める当劇場オルガン事業アドバイザー・大塚直哉氏が
今回の聴きどころをたっぷりご紹介します！

Q. 今回のプログラムは、オール「ヴィヴァルディ」ということで、最初
は、ヴィヴァルディの《四季》の中でも一番有名であろう「春」が
演奏されますね。

バロック音楽といえば、まさに《四季》が火付け役で、その代表
のようにも言われます。1曲ごとに1枚の絵画を描いた、春の風
景、夏の風景といった季節が表現されていて、とても面白い作品
です。この曲には、鳥のさえずりや小川のせせらぎ、雷鳴などを表
す音が出てきますが、古楽器を使うことで、現代の楽器とはまた
ひと味違った、生き生きとした表現をすることができるのも、楽し
みのひとつです。

Q. 「春」のヴァイオリン独奏は、古楽器オーケストラでコンサート・
マスターを務める桐山建志さんが演奏されます。

桐山さんは、このシリーズですっと演奏をしていただいているヴァ
イオリンの名手です。彼が使っているバロック・ヴァイオリンは、古
楽器を代表する楽器です。現代のヴァイオリンは、大きな会場や編
成でもソリストの奏でる音が聴こえるように、19世紀に色々な改
造がほどこされたものですが17世紀のヴィヴァルディが《四季》
を初演した時には、当然、改造前のバロック・ヴァイオリンを使っ
ていたと思われます。
桐山さんはそういった古いスタイルの楽器を弾きこなす名手なの
で、これまでも数多く古楽器で「春」を演奏されています。私も共
演もさせていただいていますが、弾くたびに音が違うんです。「今
日は鳥の機嫌がいいな」とか、「小川がいつもより流れているな」
というように、ヴィヴァルディが表現しようとしたライブで生き生
きとした描写をうまくつくり上げてくださる方です。



合唱練習の様子



大塚直哉さんと桐山建志さん

Q. 今回前半では、桐山さんのほかににも古楽器のスペシャリスト
の方とともに、協奏曲やソナタの名曲集を演奏しますが、その魅
力などを教えてください。

ヴィヴァルディはたくさんの作品を残していて、現在確認されてい
る数は800を越えています。実際にその総数がどれくらいだっ
たかは不明とされています。その中でも特に多いのがヴァイオ
リンのための協奏曲ですので、最初は、《四季》から「春」をお聴
きいただきます。

また、ヴィヴァルディの周りには、管楽器の名手がたくさんいたらし
く、そうした楽器を取り上げた2つの作品をお届けします。
「ソプラニーノ・リコーダー協奏曲」では、小学校で習うよりも小
さいリコーダーが登場します。この楽器のためにヴィヴァルディがも
のすごく「カッコいい」協奏曲を書いて、ソリストとして宮崎県
出身の辺保陽一さんが演奏します。学校で習うリコーダーが好き
になれなかった方には、ぜひ彼の吹くリコーダーを聴いてほしい
です。本当に「カッコいい」曲です。
「オーボエと通奏低音のためのソナタ」では、チェンバロやチェロ
といった低音楽器の伴奏に、バロック・オーボエが華やかさを添え
るソナタをお届けします。バロック・オーボエを演奏する尾崎温子
さんは、華やかさに加えてしっとりした柔らかない表現を得意として
います。

そして、珍しいところでは普段、オーケストラを低音で支えるチェ
ロが2台登場し、オーケストラと掛け合って演奏する、「二つの
チェロのための協奏曲」をお届けします。通常はヴァイオリンやリ
コーダーなど高い音を出す楽器がソロを担当しますが、チェロの
ように低い音の楽器が、しかも二人でソロを弾くという、普段聴
き慣れているクラシックの音色とは、かなり違ったサウンドをお楽
しみいただけるとと思います。このチェロを西沢央子さん、山根風仁

さんのお二人に演奏していただきます。

Q. 今、ご紹介いただいた楽器以外にも、今回は色々な古楽器が登場
しますが、そうした古楽器の魅力とはどういったところでしょう
か。

現代の楽器は音量も音色もピッチ（音の高さ）も安定しています。
例えば、現代のヴァイオリンでは、スチール弦（金属の線）を使うこ
とが多いのですが、バロック・ヴァイオリンには裸のガット弦（羊な
どの腸の繊維）が張ってあります。舞台上で照明が当たったり、お客
様が客席に入って湿度が変わると調弦が狂ってしまうくらい繊細
な弦なので、その都度、調弦が必要になります。
また、後半の「グローリア」では、ナチュラル（バロック）・トランペ
ットを使いますが、現代のトランペットのようにバルブの長さで音
程を変えるのではなく、長い管を唇を使って音の高さを変えてい
きます。その管が持っているナチュラルな音、ピュアな音程が出る
代わりに速いフレーズや細かい音を吹こうとすると当たりはずれ
が出てきます。しかし、どちらの楽器もそうしたリスクと引き換え
に輝かしい音色や陰った音色も使える。ある意味、不安定さを逆
手にとっているような表現が可能になるところが、あえて古楽器を
使用する魅力です。リスクはありますが、その分うまくいったとき
は素晴らしい色合いが出せるので、是非、そこもお楽しみいただ
きたいと思います。

Q. 後半のプログラムの最初は、大塚さんのオルガン演奏で始まり
ますね。

この劇場のオルガンを弾くのは2年ぶりですね。私が演奏する「協
奏曲 二長調」、元はヴィヴァルディによるヴァイオリンのための協
奏曲を、ヨハン・セバスチャン・バッハが鍵盤楽器のために編曲し
たものです。バッハがヴァイマルの宮廷に仕えていた時に領主から
依頼され、当時のイタリア音楽やヴィヴァルディの音楽語法につ
いて、いろいろと勉強をしながら編曲に当たったと言われていま
す。実際ただの頼まれ仕事以上に、とても魅力的な作品に仕上
がっています。残念ながら、ヴィヴァルディには、オルガンだけの作
品はありませんが、バッハが編曲したおかげで、オルガン曲として
も聴いていただくことができます。

Q. 今回のプログラムのメインとなる「グローリア」ですが、これは
どういった曲でしょうか。また、魅力や聴きどころについてもお聞
かせください。

「グローリア」は、「栄光」という意味のラテン語です。聖書にある
「いと高きところには神にのみ栄光あれ」という文言にはじまるミ
サ（カトリック教会の感謝の祭儀）で使用される典礼文の一部で
す。グレゴリオ聖歌の時代から現代まで、このテキストを基に多く
の音楽家が作曲をしています。ヴィヴァルディの「グローリア」は、
11の楽章からできていて、オーケストラ、合唱、声楽のソリストが、
いろいろな形で絡み合いアンサンブルを繰り返す、なかなか規



昨年度の公演の様子

模の大きな作品です。

今回は、古楽器オーケストラの演奏にのせて、公募で集まった県
民合唱団が出演します。また、曲の中で重要なソロの部分は、オー
ディションで選ばれた、若いソリストたちが担当します。幅広い世
代や分野の様々な方たちによる共演ということで、とてもカラフ
ルな演奏になるのではないかと考えています。

Q. 最後に、一言お願いいたします。

1月の寒いときですが、春の予感をさせるようなあったかいヴィ
ヴァルディの音楽を奏でたいと思っています。みなさんにお会いで
きるのを楽しみにしております。

古楽器紹介

現代では『四季』で知られるヴィヴァルディですが、何より彼は当代随一
のヴァイオリニストでした。ドラマチックに聴き映えのする難
しいヴァイオリン協奏曲を数多く残しています。この視点から彼のリコーダー協奏曲を見てみると、「ヴァイオリンを弾き
ながら作曲したのかな?」と思わせるほどの超絶技巧があち
こちに見つかります。これは他の作曲家の
リコーダー作品には見当たらない特徴
で、身近に相当腕の立つリコーダー奏者
がいたのかもしれませんが、いずれにせ
よ、ヴィヴァルディがリコーダーという楽
器にヴァイオリンのような大きな可能
性を見出して書いた「ソプラニーノ・リ
コーダー協奏曲」。リコーダー奏者とし
て大いに吹き甲斐を感じています。ど
うぞお楽しみに！



大小さまざまなリコーダー。
一番左の楽器がソプラニー
ノ・リコーダー。

辺保 陽一 Youichi HEMBO

宮崎県出身。邦人リコーダー奏者としては非常に
稀有なスイス政府奨学生としてチューリッヒ芸術大
学大学院を最優秀の成績で卒業。K. フック氏と
『DUO〜神に捧げるデュオ〜』をリリース。

公演情報

オルガンとその仲間たちシリーズ 2019「グローリア」

会場：メディキット県民文化センター（宮崎県立芸術劇場）
アイザックスターンホール
2020年1月13日（月・祝）
開場 13:30 開演 14:00

出演者

大塚直哉（企画・監修／指揮・オルガン）
桐山建志（バロック・ヴァイオリン／コンサートマスター）
大森彩加（ソプラノ） 黒木真紀子（ソプラノ） 吉澤淳（ソプラノ） 横瀬まりの（アルト）
尾崎温子（バロック・オーボエ） 辺保陽一（リコーダー） 西沢央子（バロック・チェロ）
山根風仁（バロック・チェロ） 松野美樹（バロック・トランペット）
村山上紀子（バロック・ファゴット） 他
オルガンとその仲間たち合唱団（宮崎県在住者を含めた一般公募による約60名）

演奏曲目

A. ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲《四季》より「春」 RV269
オーボエと通奏低音のためのソナタ ハ短調 RV53
ソプラニーノ・リコーダー協奏曲 RV443
2つのチェロのための協奏曲 ト短調 RV531
協奏曲 二長調 BWV972（J.S. バッハ編）
グローリア 二長調 RV589

『ショパン vs リスト』 開演直前！

人気企画のみどころ・聴きどころを 徹底解説！

人気、実力ともに、いまや日本のクラシック音楽界の次世代をリードする存在といえるピアニスト金子三勇士の大ヒット企画『ショパンvsリスト』が、いよいよ宮崎にやってきます。史上最大のライバルか？ それとも固い友情で結ばれた同志か？ ピアノ音楽史に燦然と輝く二大巨匠の魅力を、多彩な角度から浮き彫りにするこの企画のみどころ・聴きどころを、ポイント別にご案内いたしましょう。(文：浦久俊彦)



金子三勇士 Miyuji Kaneko



文・浦久俊彦 Toshihiko Urahisa

文筆家、文化芸術プロデューサー。パリで音楽学、歴史社会学、哲学を学ぶ。フランスを拠点に20年以上にわたり、幅広く総合文化プロデューサーとして活躍。帰国後、浦久俊彦事務所代表、一般財団法人欧州日本芸術財団代表理事、代官山未来音楽塾塾頭、サラマンカホール音楽監督として、日本とヨーロッパの文化芸術交流にも力を注いでいる。著書に『フランス・リストはなぜ女たちを失神させたのか』(新潮社)、『138億年の音楽史』(講談社)、『悪魔と呼ばれたヴァイオリニスト～パガニーニ伝』(新潮社)がある。

比較するのではなく、対比させてみる～プログラミングの妙

『ショパンvsリスト』最大のポイントは、ショパンとリストという二大巨匠の魅力を、作品をただ並べるのではなく、あえて「対比」させることで再発見しようという、この企画ならではのコンセプトにあります。その対比の妙はプログラム構成にも現れています。たとえば、ショパンの『黒鍵のエチュード』とリストの『ラ・カンパネラ』は、どちらもピアノ・リサイタルでもおなじみの名曲ですが、このふたつの名曲を、どちらも黒鍵を多用する作品として対比させ、ふたりの巨匠が、黒鍵をいかに多彩な音楽表現に活かしたか？という視点からお楽しみいただきます。『雨だれの前奏曲』も、『コンソレーション第3番』も、名曲だからという理由だけではなく、ショパンとリストにおける、リリズム(叙情性)やメランコリック(憂鬱)の特徴を対比させることを意図して選曲されています。おなじみの名曲たちが、新たな響きで聞こえてくるかもしれません。



リスト



ショパン

最大のクライマックス！

ショパン・リスト二大ピアノ・ソナタ聴き比べ！

でも、何とんでもこの企画の最大のみどころは、ショパンとリストの『ピアノ・ソナタ』の大作二曲の魅力を、同時に味わえることでしょう。二大巨匠が芸術性の極限に挑んだこのふたつの大曲を一気に演奏することは、その困難な技巧もさることながら、ピアニストに強靱な精神力と集中力を要求するために、ひとつのコンサートでこのふたつの曲を同時に演奏されることはまずありません。けれども、それこそが、この企画の構想段階で、金子三勇士自身がどうしても実現させたいと願ったことでもありました。それだけに、これは、いまやめざましい活躍が際立つ金子三勇士ならではの挑戦的な企てともいえるでしょう。東京オペラシティをはじめ、すでに全国各地で行われたこの公演では、圧倒的な感動がホールを包みこみました。まさにこの企画のクライマックスです。

爆笑必至!? 金子三勇士と浦久俊彦の息のあった軽妙なトーク

もうひとつのみどころ。それは、演奏のあいまに、ほっとくつろげるひとときのように繰り広げられる金子三勇士と浦久俊彦の、ユーモアあふれる軽妙なトークです。ショパンをレパートリーの核としながら、ハンガリー人の母を持ち、リスト音楽に並々ならぬ情熱を注ぐピアニスト金子三勇士のピアノへの想い、浦久俊彦によるショパンとリストの知られざる友情秘話など、眼からウロコ間違いなしの歴史エピソードもありまぜて、みなさまがよりリラックスして公演を楽しんでいただけるように、このコンサートだけのとっておきのトークをお届けいたします。

宮崎ならではの楽しみも！ スペシャルアンコール

また、宮崎県立芸術劇場だけのお楽しみもあります。ホームページなどで11月30日までに募集した、みなさまからのリクエスト曲の中から、もっとも人気の高かった曲を当日発表し、それを金子三勇士が演奏するという、音楽の殿堂メディキット県民文化センターだけのスペシャル・プログラムです。はたして宮崎のナンバーワンに輝くのは、ショパンか？ それともリストか？ 盛りだくさんの魅力が詰まった『ショパンvsリスト』を、どうぞお楽しみください！

公演情報

ピアノの巨人たちの肖像 ショパン vs リスト

会場：メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 演劇ホール
2020年2月2日(日) 開場 13:30 開演 14:00

【出演者】 金子三勇士(ピアノ) 浦久俊彦(ナビゲーター)

【曲 目】 ショパン：英雄ポロネーズ
リスト：コンソレーション第3番
ショパン：前奏曲『雨だれ』
ショパン：黒鍵のエチュード
リスト：ラ・カンパネラ
ショパン：ピアノ・ソナタ第2番
リスト：ピアノ・ソナタ 口短調

※都合によりプログラムが変更になる場合もございます。あらかじめご了承ください。

ロバート・バーローの あそびの教室

11月9日と10日に開催した「あそびのぼうけんフェスティバル」にお越しいただいたみなさま、ありがとうございました!今回はそのフェスティバルの中から、「ロバート・バーローのあそびの教室」についてレポートします。2つの風変わりな教室に、総勢43名のこどもとおとなのみなさんが参加してくれました。あそびの教室は、教室とはいえ、みんなで考えながらあそぶための教室です。いったいどんな「あそび」が生まれたのでしょうか。



さて、どっちであそぼうかな



みんなの好きな音ってなに?

「ぼくは、『ぼ～ん!』かなあ」「わたしは『トントン』」。じゃあさ、その音に動きをつけてみようよ。みんなの好きな音、動きと一緒に、輪になって歩くと、なんだか愉快的な行進みたいだね。

ばやんばやん国の王様があらわれた!
どうやら今日は、ばやんばやん国の
大事な記念日らしい。



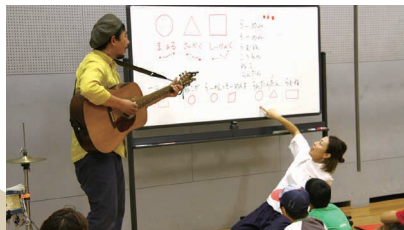
お祝いのパレードのために、4つの国のうたとダンスを考えたよ。「ブータタタタタタタタッパ」は、どこの国の歌だったか?



つぎは、それぞれの国の旗をつくらう!ペンや筆は使わずに、物の形で描いてみるよ。ペットボトルや瓶、卵のケースに、海から流れてきた不思議なものたち…。スタンプしてみたならあれ?な形も、全部素敵な模様になるね。



4つの国の旗が完成!歌って踊って、みんなでパレードしよう!ラッパッパラッパッパ♪ラッパッパレードどこへ行こう♪



まずは音が似ているコトバを探してみよう。ラーメン→そうめん→ラムネ?→こうえん…。じゃあさ、ラーメンは○と▲と□でいったら、どのカタチだろう。そうめんは何か?カタチがきまったら、それぞれのカチをメロディにはめて曲をつくってみようか。



このあそびかたで、もっと実験してみよう!4つのチームに分かれて、くじ引きではじめのコトバをきめるよ。



くじでひいたコトバの「音」に注目してみよう。似ている音がするコトバはなんだろう。そのコトバは、かたちにしたら、○?▲?それとも□?

こんどはコトバに注目して、ダンスを考えてみよう!ひとりで踊るもよし、みんなと組み合わせるもよし!あれもいいな、これもいいな。



なんだか頭が柔らかくなった気がする!



考えた歌とダンスを、みんなで見せあいっこ!どれもヘンテコで、なんだか楽しいね。

音であそぼう!コトバであそぼう!
カタチであそぼう!
みんなでやればなんでもできるぜ。
あそびのぼうけんをつづけよう!

メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場) 自主事業公演チケット情報

おんがくのおもちゃ箱シリーズ Part.10

【日時】
2月8日(土) 開場 10:30 / 開演 11:00

【会場】メディキット県民文化センター
(宮崎県立芸術劇場)演劇ホール

チケット料金<全席自由> ※当日券同額
4歳未満:無料 4歳以上:500円
なかよし:700円(4歳以上から大人までの2人1組)(前売りのみ)
●この公演は0歳からご入場いただけます。

曲 目	出演者
♪鬼のパンツ	黒木奈津季(ピアノ)
♪北風小僧の寒太郎	大西映光(ベース)
♪星にねがいを	衛藤和洋(ドラム)
♪パプリカ	古賀鈴子(ハープ)
	伊豆諤子(司会・進行)

あなたのとびっきりの
「〇〇だったらいいのにな」
を大募集! 詳しくはこちら▶



Attention(ご注意)

- ◎記載情報は変更になる場合があります。
- ◎()内はくれっしえんど倶楽部会員価格です。
- ◎U25割は鑑賞時25歳以下が対象。その他の割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。
- ◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増になります。
※一部公演除く
- ◎託児サービス(有料・事前申込要)をご利用いただけます。
※一部公演除く

2020年

1月13日(月・祝)
開場 13:30 開演 14:00

アイザックスターンホール

オルガンとその仲間たちシリーズ2019
「グローリア」

詳細はP3・4▶▶

チケット発売中

出 演:大塚直哉(企画・監修/指揮・オルガン)、
桐山建志(バロック・ヴァイオリン/コンサートマスター)、大森彩加(ソプラノ)、
黒木真紀子(ソプラノ)、吉澤淳(ソプラノ)、横瀬まりの(アルト)、
古楽器オーケストラ、オルガンとその仲間たち合唱団(約60名)
全席指定 一般2,500円(2,200円) U25割1,500円 親子割3,000円 ※小・中学生+一般

1月23日(木)
開場 18:15 開演 19:00

アイザックスターンホール

ベルリン・フィルハーモニー
ピアノ四重奏団

チケット発売中

出 演:ベルリン・フィルハーモニー ピアノ四重奏団
ルイス・エスナオラ(ヴァイオリン)、マシュー・ハンター(ヴィオラ)、
クヌート・ウェーバー(チェロ)、マルクス・グロー(ピアノ)
全席指定 一般4,000円(3,600円) U25割2,000円 親子割4,500円 ※小・中学生+一般

2月2日(日)
開場 13:30 開演 14:00

演劇ホール

ピアノの巨人たちの肖像「ショパンVSリスト」

詳細はP5▶▶

チケット発売中

出 演:金子三勇士(ピアノ)、浦久俊彦(ナビゲーター)
全席指定 一般3,000円(2,700円)
ペア割5,000円(4,500円) ※前売りのみ
U25割1,500円 親子割3,500円 ※小・中学生+一般

2月8日(土)
開場 10:30 開演 11:00

演劇ホール

おんがくのおもちゃ箱 シリーズPart.10

チケット発売中

出 演:黒木奈津季(ピアノ)、大西映光(ベース)、衛藤和洋(ドラム)
古賀鈴子(ハープ)、伊豆諤子(司会・進行)
全席自由 4歳未満 無料 4歳以上 500円
なかよし 700円(4歳以上から大人までの2人1組) ※前売りのみ
※当日券同額 ●この公演は0歳から入場いただけます。

**2月26日(水)
~3月1日(日)**

平日/開場 18:30 開演 19:00
土・日/開場 13:30 開演 14:00

イベントホール

「新 かぼちゃといもがら物語」#4
『幻視~神の住む町』

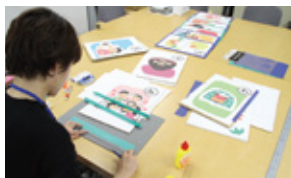
詳細はP1・2▶▶

チケット発売中

作 :シライケイタ
演 :立山ひろみ
出 演:東風万智子、駒木根隆介、河内哲二郎、中野弥生、五島真澄、三浦真樹
全席自由 一般3,500円(3,100円) U25割1,500円
(日時指定) ペア割6,000円(5,400円) ※前売りのみ
●2月29日(土)の終演後にアフタートークがあります。

くれっしえんど広報誌 表紙作製秘話

「ここはどこでしょう?」シリーズも第3弾目に!今回は劇場の和室を利用しての撮影を行いました。お正月も近いことから、職員が自作したジャンボかるたに挑戦!驚くほどの跳躍力を発揮する職員もいて笑いの絶えない現場になりました。心も体も温まるからで、みなさんもお正月を過ごしてみたいはいかがでしょう?



ジャンボかるたを作製中。



職員の演技にも熱が入ります。



撮影の裏側はこんな感じ。



最後はみんなで記念撮影!

劇場 和室貸出のご案内

劇場には茶道や日本舞踊などのための和室をご用意しております。24畳に板間14帖で広々としており、会議や仲間内での勉強会などにもお使いいただけます。ご利用希望の方はお問い合わせください。【施設利用専用TEL:0985-28-3228】

時間帯	午前	午後	夜間	全日	付帯設備
	9:00~12:00	13:00~17:00	18:00~22:00	9:00~22:00	・座布団 座机 ・冷暖房完備 ・ポットの貸出等あり
料 金	2,510円	3,230円	3,230円	8,970円	



お問合せ



宮崎県立芸術劇場
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

〒880-8557 宮崎市船塚3-210
http://www.miyazaki-ac.jp/

TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670

Twitter and facebook 随時更新中!「フォロー」と「いいね!」お待ちしております。